

奈良工業高等専門学校		開講年度	令和04年度 (2022年度)		授業科目	国語 I	
科目基礎情報							
科目番号	0001			科目区分	一般 / 必修		
授業形態	講義			単位の種別と単位数	履修単位: 3		
開設学科	電子制御工学科			対象学年	1		
開設期	通年			週時間数	3		
教科書/教材	「新編言語文化」(大修館書店)「新編現代の国語」(大修館書店) / 「新国語便覧(新版六訂)」(第一学習社)、「常用漢字ダブルクリア」(尚文出版)、『新版完全マスター古典文法準拠ノート実力養成』(第一学習社)、「1日10分言語力ドリル 読む」(第一学習社)、「1日10分言語力ドリル 書く」(第一学習社)						
担当教員	藤井 隆輔						
到達目標							
1.高等学校1年生相当の漢字力や語彙力を身につけている。 2.小説について、登場人物の心情の変化を読み取ることができる。また、自身の経験にひきつけて感想を述べることができる。 3.評論文について、筆者の意見を的確に把握し、正確に要約することができる。また、筆者の意見に対して、自身の意見を、根拠をもって表現することができる。 4.日本の伝統的な言語文化について興味・関心を持ち、その価値に気づくことができる。 5.文語のきまり、漢文訓読のきまりを身につけている。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安			標準的な到達レベルの目安		未到達レベルの目安	
コミュニケーション力	話し手の指示や意見を的確に聞き取り、正確にまとめることができる。 聞き手を意識しながら、自身の意見や与えられた文章を、適切な声の大きさ、明瞭な発音で、述べたり読んだりすることができる。			話し手の指示や意見を的確に聞き取ることができる。 聞き手を意識しながら、自身の意見や与えられた文章を、述べたり音読したりすることができる。		話し手の指示や意見を聞くことができない。 聞き手を意識せずに、自身の意見や与えられた文章を、声の大きさや発音に気を留めずに述べたり音読したりする。もしくは活動時に発言しない。	
読解力・思考力	書物や文献に対して、批判的に読解し、自身の意見を抱き、正確に表現することができる。			書物や文献に対して、自身の意見を抱き、表現しようと工夫することができる。		書物や文献に対して、自身の意見を表現することができない、もしくは文章表現として著しい誤りがある。	
判断力・表現力	初見の文章について、内容を理解しながらスムーズに音読することができる。			初見の文章について、句としてのまとまりを意識しながら音読することができる。		初見の文章について、単語ごとに細切れに音読する。	
言語運用能力	言葉に関心を持ち、疑問に感じた言葉を即座に調べ、習得することができる。 高校卒業程度の語彙力(漢検準2級～2級程度)を有しており、適切に運用することができる。			言葉に関心を持ち、疑問に感じた言葉を自主的に調べることができる。 高校在学程度の語彙力(漢検準2級程度)を有しており、適切に運用することができる。		言葉に関心がなく、初見の語であっても自主的に調べることがない。 中学校卒業程度の語彙力(漢検3級程度)を有しており、高校在学程度の語彙を誤って運用することができる。	
伝統的な言語文化に対する能力(古文)	日本の伝統的な言語文化について興味・関心を持ち、その価値に気づくことができる。			日本の伝統的な言語文化について、興味・関心を持つことができる。		日本の伝統的な言語文化について興味・関心を持ったり、その価値に気づくことができない。	
伝統的な言語文化に対する能力(漢文)	文語のきまり、漢文訓読のきまりを身につけている。			文語のきまり、漢文訓読のきまりについて、調べることができる。		文語のきまり、漢文訓読のきまりについて、全く理解できない。	
学科の到達目標項目との関係							
準学士課程(本科1～5年) 学習教育目標 (3)							
教育方法等							
概要	他者との相互理解や相互伝達を円滑なものにするために、理解力や表現力とそれらを支える思考力や感性を培う。また、言語文化への理解を深め、多様な価値観を知ることを通して、豊かな人間性を育む。また、言語文化への理解を深め、多様な価値観を知ることを通して、豊かな人間性を育む。						
授業の進め方・方法	高等学校第1学年に相当する学力を身につけるため、高等学校用の教科書を使用し、様々な文章を読んで多角的な思考力を養っていく。また学生同士で「話し合う」、考えた内容をノートや文章に自分で「まとめる」ことを通して自分の考えを深める。 通年の2時間を「言語文化」(小説・古文・漢文)、半期の2時間を「現代の国語」(評論文・文章表現)の時間に当てる。						
注意点	関連科目 国語の運用能力は、人文や社会科学系の科目ばかりでなく、自然科学系の科目の基礎にもなる。 学習指針 授業中は発問を多くするので、積極的な発言や質問ができるよう準備しておくこと。 また、作文や創作の時間を有効に使えるように、日頃から問題意識を持って自分や自分の身の回りの世界に目を向けておくこと。定期的に漢字小テストをする。 自己学習 事前学習：授業前に教科書の下読み、知らない言葉の下調べは必ず行うこと。予習プリントを済ませておくこと。 古典については、事前に教科書の本文を写し、重要単語の意味を調べ、必要に応じて大事な注なども写しておく。予習として自分で本文を現代語訳しておくのもよい。 事後展開学習：ノートやプリントを見直しながら授業内容を確認する。得た知識に基づいて新聞や雑誌記事などを読む。 古典では授業では扱わなかった教材を読み、古典に親しむ。						
学修単位の履修上の注意							
授業の属性・履修上の区分							
☐ アクティブラーニング		☐ ICT 利用		☐ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		

前期	1stQ	1週	言文 ガイダンス・「論語」学問のすすめ 現国 ガイダンス・「「変わる」ことを楽しもう」①	言文 「学ぶ」ということについて、高専での生活をイメージしながら理解することができる。 現国 「変わる」とことと「好奇心」の関係を理解することができる。
		2週	言文 「児のそら寝」 現国 「「変わる」ことを楽しもう」②	言文 児と僧たちの行動や心情の変化を読み取ることができる。 現国 本文の内容を踏まえて、高専での生活をイメージし、文章にまとめることができる。
		3週	言文 「十二の「子」文字」 現国 「ことばの使い分け」	言文 漢字の読みと日本の言語文化について理解を深めることができる。 現国 場面の応じた適切な言葉遣いができる。敬語を使いこなすことができる。
		4週	言文 「羅生門」① 現国 「正しく書こう」	言文 作者について知る。本文の構造を理解することができる。 現国 正確で整った文が書ける。悪文の訂正ができる。原稿用紙の使い方を習得する。
		5週	言文 「羅生門」② 現国 「文を整え、文をつなぐ」	言文 主人公の状況や心情を考えることができる。 現国 簡潔でわかりやすい文が書ける。接続表現を使いこなすことができる。
		6週	言文 「羅生門」③ 現国 「ナンバーワンか、オンリーワンか」①	言文 登場人物の「論理」を考えることができる。 現国 接続表現に注意して読解し、説明の仕方を捉えることができる。
		7週	言文 「羅生門」④ 現国 「ナンバーワンか、オンリーワンか」②	言文 「今昔物語集」と比較して解釈を深めることができる。 現国 本文全体の構成を把握し、筆者の主張を理解することができる。
		8週	前期中間試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
	2ndQ	9週	前期中間試験返却・解説 言文 「守株」 現国 「水の東西」①	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する。 言文 「守株」の意味を理解することの話を語られている教訓の意義を理解することができる。 現国 具体と抽象の関係、対比構造を把握することができる。
		10週	言文 「徒然草」高名の木登り 現国 「水の東西」②	言文 本文の内容を理解し、作者の言いたいことを把握することができる。 現国 具体と抽象の関係、対比構造を用いた作文ができることができる。
		11週	言文 「枕草子」うつくしきもの 現国 「意見文の基礎を学ぼう」	言文 筆者の言う「うつくしきもの」の特徴を読み取ることができる。 現国 意見文の基本的な書き方と構成の仕方を習得することができる。
		12週	言文 「水かまきり」① 現国 「反対意見を想定した意見文を書こう」「レポートを書こう」	言文 登場人物の関係と置かれている状況を理解することができる。 現国 反対意見を想定し、説得力のある意見文を書くことができる。適切に情報収集することができる。レポートの執筆に応用することができる。
		13週	言文 「水かまきり」② 現国 「自分の考えをつくるために」①	言文 作品における「水かまきり」の意味を理解することができる。 現国 本文の構成や具体と抽象の關係に注意しながら、筆者の主張を読み取ることができる。
		14週	言文 「水かまきり」③ 現国 「自分の考えをつくるために」②	言文 「ケン坊」の変化を、状況を踏まえながら理解することができる。 現国 筆者の主張を踏まえて、社会や他者との関わりや幸せについて考えを深め、文章にまとめることができる。
		15週	前期末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
		16週	試験返却・解説	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する。
後期	3rdQ	1週	言文 「蛇足」	言文 「蛇足」の意味を理解することができる。この話の教訓の意義を理解することができる。
		2週	言文 「伊勢物語」あづま下り①	言文 当時の人々の生活を理解し、旅や習慣を理解することができる。
		3週	言文 「伊勢物語」あづま下り②	言文 和歌の技巧を理解する。登場人物の心情を読み取ることができる。
		4週	言文 「ことばは光」①	言文 筆者の経験やものの見方、考え方を的確に読み取ることができる。
		5週	言文 「ことばは光」②	言文 自分の経験を振り返り、考えを深めることができる。
		6週	言文 「夢十夜」①	言文 作品の状況設定を的確に捉えることができる。
		7週	言文 「夢十夜」②	言文 叙述から人物の心情や象徴性を読み取ることができる。
		8週	後期中間試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
	4thQ	9週	後期中間試験返却・解説 言文 「完璧」	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する。 言文 古人の知恵や教訓を理解することができる。
		10週	言文 「更級日記」あこがれ①	言文 作者の心情を読み取ることができる。
		11週	言文 「更級日記」あこがれ②	言文 当時、物語や書物がどのように読まれていたのかを理解することができる。
		12週	言文 「形」①	言文 場面や登場人物の設定を理解することができる。
		13週	言文 「形」②	言文 「形」の意味を考えることができる。

		14週	言文 「形」③	言文 「常山紀談」と比較して、解釈を深めることができる。
		15週	学年末試験	授業内容を理解し、試験問題に対して正しく解答することができる。
		16週	試験返却・解説	試験問題を見直し、理解が不十分な点を解消する。

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
基礎的能力	人文・社会科学	国語	国語	論理的な文章(論説や評論)の構成や展開を的確にとらえ、要約できる。	2	前1,前2,前6,前7,前8,前9,前10,前13,前15,前16,後4,後5,後8
				論理的な文章(論説や評論)に表された考えに対して、その論拠の妥当性の判断を踏まえて自分の意見を述べるができる。	2	前1,前2,前6,前7,前8,前9,前10,前13,前15,前16,後4,後5,後8
				文学的な文章(小説や随筆)に描かれた人物やものの見方を表現に即して読み取り、自分の意見を述べるができる。	2	前4,前5,前6,前7,前8,前12,前13,前14,前15,前16,後2,後3,後6,後7,後8,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				常用漢字の音訓を正しく使える。主な常用漢字が書ける。	1	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				類義語・対義語を思考や表現に活用できる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				社会生活で使われている故事成語・慣用句の意味や内容を説明できる。	2	前1,前2,前3,前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後1,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16

				専門の分野に関する用語を思考や表現に活用できる。	2	前1,前3,前4,前5,前6,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後2,後3,後4,後5,後6,後7,後8,後9,後10,後11,後12,後13,後14,後15,後16
				実用的な文章(手紙・メール)を、相手や目的に応じた体裁や語句を用いて作成できる。	2	前3,前4,前5,前8,前10,前11,前12,前15,前16,後8,後15,後16
				報告・論文の目的に応じて、印刷物、インターネットから適切な情報を収集できる。	3	前6,前7,前9,前10,前11,前12,前14,後8,後15,後16
				収集した情報を分析し、目的に応じて整理できる。	3	前4,前5,前6,前7,前8,前9,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後8,後15,後16
				報告・論文を、整理した情報を基にして、主張が効果的に伝わるように論理の構成や展開を工夫し、作成することができる。	3	前4,前5,前7,前8,前10,前11,前12,前15,前16,後8,後16
				作成した報告・論文の内容および自分の思いや考えを、的確に口頭発表することができる。	3	前1,前2,前7,前14,後14
				課題に応じ、根拠に基づいて議論できる。	3	前1,前2,前7,前14,後14
				相手の立場や考えを尊重しつつ、議論を通して集団としての思いや考えをまとめることができる。	3	前1,前2,前7,前14,後14
				新たな発想や他者の視点の理解に努め、自分の思いや考えを整理するための手法を実践できる。	3	前5,前7,前8,前10,前11,前12,前13,前14,前15,前16,後4,後5,後12,後13,後14,後15,後16

評価割合					
	試験	提出物	提出物		合計
総合評価割合	70	20	10	0	100
現代文能力	49	10	10	0	69
古典能力	21	10	0	0	31